

任として永く勤務す。正六位勲六等、歿年不明。

高松政正(化)

鳥取の人(本籍東京府)、安政六年七月二十二日生、明治十六年工部大学校卒業(化学科)工学士

明治三十年より内務省第五区(大阪)土木監督署嘱託として永年勤続し、工所用セメント試験を掌り、(大阪築港も兼務した)昭和初年頃内務省退職、昭和十二年七月三十一日撰津箕面村にて歿、享年七十九。正六位勲六等。

(四) 省内、土木試験所、河川、砂防、港湾工事の技師

明治初年以來内務省直轄工事や調査計画及府県土木の管理に尽力した技師は多数であるが、これ等は寒暑を厭わず、孜孜として働いた人々であつて、忘れてはならない。茲に記して記念とする。

土木局 (明治四十年調査課監理課設置以前は多くは不明。終戦以後の人は省く真田著土木行政冊子三〇頁を見よ)

近藤 希五郎	二〇	比田 孝一	二六	池田 円男	三〇	直木 倫太郎	三二
小柴 保人	一三	岡崎 文吉	二五頃	宮川 清	二九	田賀奈 良吉	三一
監沖野 忠雄	外二	監市 瀨 恭次郎	二三	安芸 杏一	二九	片山 貞松	三一
宮ノ原 誠 藏外	一	監原 田 貞介	外二四	藏重 哲三	二八	牧 彦七	三一
監古市 公 威外	一	岡崎 芳樹	二二	前川 貫一	三〇	島 重治	三〇
卒業年	南 部 常次郎	二〇	安達 辰次郎	二七	島 重治	三〇	

後藤 運平	三二	山内 喜之助	四二	高橋 嘉一郎	五	末森 猛雄	一〇
金 森 歙太郎	三三	牧野 雅栄之丞	四二	遠藤 守一(林)	六	近藤 謙三郎	一〇
坂田 貞明	三三	水野 重民		富永 正義	六	加藤 伴平	一一
山根 三樹	三三	久永 勇吉	四三	宮本 武之輔	六	桜井 英記	一一
監青山 士	三六	田 辺 良忠	四三	浅見 洋	六	磯谷 道一	一一
茂庭 忠次郎	三七	物部 長穂	四四	春藤 真三	七	中島 時雄	一一
三浦 矩明	三七	寛 斌治	四五	和田 重辰	七	永田 年	一一
村 幸長	三七	佐藤 利 恭大正三	三	監山下 輝夫	七	檜山 千里	一一
山田 博愛	三八	監鈴木 雅次	三	監岩 沢 忠 恭	七	蔵重 長男	一一
徳永 保喜	三九	安東 功	三	阿部 一郎	七	井関 正雄	一一
監辰馬 鎌藏	四〇	三浦 七郎	三	砂治 国良	八	栗原 斧衛	一一
松波 秀一	四〇	河口 協介	三	阪上 丈三郎	八	長 沢 忠 郎	一一
大久保 清長	四〇	赤木 正雄(林)	三	奥村 孝藏	八	廣 瀬 孝六郎	一一
村山 喜一郎	四一	萩原 俊一	四	村野 為治	八	監稲 浦 鹿藏	一一
白井 清彦	四一	金子 源一郎	四	鈴木 健二	九	上 山 鉄之助	一一
監谷口 三郎	四二	三輪 周藏	四	内村 三郎	九	水谷 鏞	一一
福田 次吉	四二	榎木 寛之	五	島野 貞三	一〇	平尾 勝	一一

長久保 俊夫	一三	加藤 正晴	三	藤野 義男	八	西川 栄三(化)	八
鈴木 清一	一四	伊藤 剛	四	福田 秀夫	九	兵藤 直吉	九
末松 栄	一四	原田 忠次	四	斎藤 義治		高田 昭(地質)	一一
今泉 佳三郎	一四	監 富樫 凱一	四	小野寺 透		松尾 春雄	一三
監 菊池 明	一四	木村 弘太郎(林)	五	三島 勇		土屋 積高(建)	一三
杉戸 清	一五	本間 仁	五	土木試験所		兼岩 伝一	一四
安芸 皎一	一五	上ノ土 実	五	(終戦後は省く)		安芸 皎一	一五
町田 保	一五	藤 芳義 男	五	牧 彦七	明治三一	大野 博	一五
黒田 静雄	一五	若林 正次	五	牧野 雅楽之丞	四二	遠藤 膳作	
渡辺 弥作	一五	松岡 又二		物部 長穂	四四	伊藤 令二	昭和二
伊藤 信昭	二	樋浦 大三		藤井 真透	大正三	松村 孫治	二
伊藤 令二	二	深谷 克海	六	青木 楠男	七	金子 征	二
小沢 久太郎	二	兼重 信雄	六	以上所長		小沢 久太郎	二
金子 征	二	奥田 秋夫	六	林 助一	明治四二	島田 八郎(物)	三
橋本 規明	二	黒沢 喜代次	七	中山 卯三郎	攻玉社四三	伊藤 剛	四
柿 徳市(林)	三	横山 幹太	八	山田 元	大正五	本間 仁	五
松井 達夫	三	大石 博愛(林)	八	岡部 三郎	五	西村 義一	五

直轄工事の技師名(河川、砂防、港湾)終戦迄の人

福島 弥六(化)	六	星野 和	九	小野寺 透(地)	一一	尾之内 由紀夫	一四
佐藤 寛政	六	田原 保二	九	斎藤 義治	一一	村上 永一	一四
平松 頼夫	六	横田 周平	一〇	佐藤 清一	一三	竹内 俊雄	一五
猪瀬 寧雄	昭和六	山田 順治	一一	村 幸雄	一三		
藤森 謙一	九	谷藤 正三	一一	一木 保夫	一三		

明治、大正以後内務省直轄河川、砂防、港湾工事に従事せる技師名はその記録多くは焼失し、先輩も死去せる故、これが集録は中々困難であるが、予の記憶や友人の記憶および調査や建設省河川局、運輸省港湾局調査等を網羅して、漸く出来た。併し遺漏あるを恐る。

人名は現場技師を主とし、主任を先にし、先輩、後輩を問わず就任順とし、土木以外の人も記入した。土木監督署、土木出張所の本庁内の署長や技師は( )を附した。

(一) 河川

明治初年より三十年頃に修築せる河川(信濃、阿賀野、富士、庄、阿武隈、最上、吉野、大井、天竜)の直轄低水工事には府県費施行の堤防工事を伴うたが、淀、利根、木曾、北上、筑後川には堤防工はなかつた。その頃の現場には、学校出でない老練の属、技手が主任であつて、技師は本庁内に居つた。技師が現場の陣頭に立つた

のは二十九年起工の淀川改修以後の事である。

## 淀川

低水工事（明治七―二八）ケレップ沈床工である。

（宮ノ原誠蔵、田辺義三郎、沖野忠雄、属佐藤守一、属高林高之、属吉富篤郎、属松岡）現場は  
技手土井八太郎、技手片岡西止等、

高水防禦工事（改修）（明治二九―四三）全川の改修で、新淀川の放水路も作った、詳細は沖野博士伝中に

述べた。（沖野忠雄、嘱託川上新太郎（機）、青木元五郎、渡辺六郎、高松政正（化））

現場は三池貞一郎、長沢忠、宮川清、池田円男、真田秀吉、田中吉二、後藤運平、金森敏太郎、

熊谷直道、坂本助太郎、松田虎喜代、並川熊次郎、辰馬鎌蔵、大津道雄、寺田三男、

田中捨之丞（機）加納盛吉（機）

下流改修（四〇―大正一一）安治川浚渫と市内川幅規定と守口以下の水制護岸工事なり。

（沖野忠雄、中原貞三郎、青木元五郎、岡崎芳樹、三池貞一郎、嘱託川上新太郎（機））

真田秀吉、金森敏太郎、坂本助太郎、並川熊次郎、山内喜之助、杉谷茂、千田正重、尾藤剛（機、

維持（四四―）初は閘門水門洗堰の維持管理なりしも、後河川工作物堤防等一切の維持管理を

なす。

（中原貞三郎、青木元五郎、岡崎芳樹、真田秀吉、坂本助太郎、高西敬義、佐藤利恭、高橋嘉一  
郎、和田重辰）

増 田淵寿郎、山内喜之助、荻原基治、大島太郎、三島卯四郎、井上清太郎、小林真一、高橋清吉  
補（大正七―昭和七）流量増大したため堤防拡築をなし、且つ伏見築堤、閘門、新高瀬川開削を

主とす

（岡崎芳樹、真田秀吉、坂本助太郎）

坂本助太郎、谷口三郎、犬飼寿太郎、山内喜之助、山下輝夫、千田正重、井上清太郎、稲垣茂樹  
田中隆作、諸井英一

低水工（昭和八―）（坂本助太郎、高西敬義、佐藤利恭、高橋嘉一郎、和田重辰）

井上清太郎、小林真一

修 補（昭和一四―）牧方以下堤防拡築及地盤沈下による閘門嵩上を主とし、小枝川改修をな  
す。のち計画を拡大改訂した。

（佐藤利嘉、高橋嘉一郎、和田重辰）

大島太郎、大塩政治郎、三島卯四郎、井上清太郎、小林真一、高橋清吉、湯本久右衛門（機）

## 利根川

低水工事（明治八―三三）（江戸川を含む）（山田寅吉、石黒五十二、近藤仙太郎）

近藤仙太郎、技手荒井三七、技手青木其成、技手柿沼卯三郎等

第一期改修（佐原以下）（三三―四二、四三―昭和五）広大なる野地に堤防を作り、大浚渫をした。四十二  
年一亘竣工し、四十三年以後堤防拡築す。

(日下部弁二郎、近藤仙太郎、中原貞三郎、中川吉造、真田秀吉、嘱託坂田貞一(機))

中川吉造、山岡元一、坂田貞明、奥田定一郎、鈴木博、野田孝一、荒井鈞吉、春木節郎、鈴木雅次  
第二期改修(佐原、取手間)(四〇―昭和五)(近藤仙太郎、中原貞三郎、中川吉造、真田秀吉)

中川吉造、鈴木博、荒井鈞吉、金古久次、牧野雅楽之丞、鈴木雅次、村幸長、金森誠之、宮本武  
之輔、阿部清紀、奥村孝藏、青柳松二(機)

第三期改修(取手以上)(四三―昭和五)所々に遊水池を設け、長さ一〇八km間の大改修である。

(近藤仙太郎、中原貞三郎、沖野忠雄、中川吉造、真田秀吉、名井九介、嘱託川上新太郎(機))

真田秀吉、片山貞松、坂本助太郎、平井新六、福田次吉、市来尚治、尾崎昌盛、渡辺研六、寛斌  
治、来島良亮、伊達光三、伊藤百世、山岸安二、久保田耕太郎、辰馬鎌藏、富永正義、小野竜一  
石橋六郎、池田信、阿部清紀、田崎二三次(機)青柳松二(機)小松郁次郎(機)尾藤剛(機)  
岩舟工場(採石)小野是一郎

維 持(大正一二―)渡良瀬、江戸川を含む、河川工作物一切の維持修繕

(中原貞三郎、中川吉造、真田秀吉、辰馬鎌藏、谷口六郎、鈴木雅次、山下輝夫、岩沢忠恭)

増 補(昭和一四―)江戸川、渡良瀬川を含む、昭和十年の大水にて増補計画を施工中、二十二  
年の大出水にて計画を改訂し拡大す。(流量増加をして堤防拡張や川幅拡げや、検見川放水路  
等の大計画)

### 江戸川

低水工事 利根川を見よ

改 修(明治四四―昭和五)関宿棒出附近大改造と流末の放水路が特色である。

(近藤仙太郎、中原貞三郎、中川吉造、真田秀吉、名井九介)

前川貫一、春木節郎、福田次吉、内海清温、八島茂、三島卯四郎、池田信、井口鹿象、安藤秀夫  
極部保、尾藤剛(機)

維 持(大正一二―)

増 補(昭和一四―)利根川を見よ。

改訂計画(昭和二四―)

中 川(大正五―昭和四)庄内古川を含む(中原貞三郎、中川吉造、真田秀吉、名井九介)

山根三樹、小笠原酉三郎、大岡大三、寛斌治

### 信濃川

低水工事(明治九―三八)(沖野忠雄、石黒五十二、小柴保人、岡胤信)現場人不明

長岡以下新潟まで七九km間の河身低水工は内務省施工、堤防工は新潟県施工、但し堤防も監督は

内務省、計画は外人と古市公威。施工中分水主張の議起り、三十八年大部分竣工の時中止す。

改 修(四〇—昭和二) 工事は大正一三竣工、全部の竣工は昭和二年。分水と川口工事である。

(小柴保人、渡辺六郎、新開寿之助、(囑託)川上新太郎(機) 計画は沖野忠雄、原田貞介、前川貫一)

三池貞一郎、安芸杏一、島重治、新開寿之助、有泉栄一、河合治八郎、高坂浅吉、塚本積、山口

昇、岡部三郎、大島太郎、金子南灌、加納盛吉(機) 宮武亮三郎(機) 上関徳也(機)

補 修(昭和二—六) 自在堰等の改造等なり、宮本武之輔、大塩政次郎、後藤憲一

上流改修(大正二— ) (渡辺六郎、新開寿之助、青山士、伊藤百世、蒲孚、山田三郎、山下輝

夫、岩沢忠恭)

追加工事(昭和十六— ) 高坂浅吉、中村保、山田三郎、南武男、兵藤直吉、鷲尾蟄竜、中沢安蔵、

金子南灌、玉井正彰、寺西弘治

維 持(昭和二— ) (新開寿之助、青山士、伊藤百世、蒲孚、山田三郎、山下輝夫、岩沢忠恭)

#### 木會川

低 水(明治一一—二一頃) (属、山崎潔水、属、宮内行広、宮ノ原誠蔵、清水济、田辺義三郎、佐伯

敦崇) 現物人不明

改 修(二〇—大正二) 計画は十八年洪水を基としデレレーケ、清水济、佐伯敦崇これに当る。三川分流

の大工事である。

(田辺義三郎、清水济、沖野忠雄、佐伯敦崇、原田貞介、青木元五郎、田瀬松太郎、大窪正、丹

羽鋤彦、西尾虎太郎、名井九介)

(手) 有馬義敬、青木良三郎、野村年

上 流(大正一〇— ) (前川貫一、辰馬鎌蔵、金古久次、塚本積、田淵寿郎、富永正義、阿部

清紀) 木會、長良、揖斐三川と大支流改修の大工事である。

都々木春美、坂田昌亮、阿部清紀、三池鎮浪、梶谷薫、松久正次、小山猛三、高野宗久、橋内徳

治、平井寛、橋本規明、西山忠一、高井久寿雄、北村正之、久道寿、湯本久右衛門(機) 上関徳

也(機) 高村賢吉(機)

維 持(明治三五— ) 背割堤、導流堤、閘門等の維持管理

(原田貞介、青木元五郎、岡崎芳樹、前川貫一、辰馬鎌蔵、金古久次、塚本積、田淵寿郎、富永

正義、阿部清紀、大窪正、西尾吉辰) 現場人不明、多分改修と兼務と思う。

下流増補(昭和一一— ) 改修堤防嵩上等をなすものである。

(金古久次、塚本積、田淵寿郎、富永正義、阿部清紀)

千田正重、阿部清紀、三池鎮浪、梶谷薫、村林保

#### 北上川

低 水(明治一三—三五) 盛岡より石巻まで二〇〇km間施工、工場は一の関にあつた。

(沖野忠雄、石黒五十二)

小林八郎、小柴保人、近藤虎五郎、丹羽鋤彦、早田喜成、名井九介

改 修(四四―昭和九) 本川を追波川へ附替えた大工事である。竣工後昭和二十二年の大出水にて計画を拡大改訂し、工事中である。

(沖野忠雄、青木元五郎、市瀬恭次郎、三池貞一郎、坂本丹治、(囑託)川上新太郎(機))  
野村年、徳田文作、並川熊次郎、伊藤百世、竹村俊一、山口十一郎、高橋嘉一郎、和田重辰、池田徳治、平田全裕、大久保清長、上山鉄之助、中村保、藤田弘直、安蔵善之輔、青柳松二(機)  
秩父順次(機) 上関徳也(機)

維 持(昭和八― ) (坂本丹治、福田次吉、田淵寿郎、三島卯四郎、金森誠之、匹田敏夫、池田徳治)

前園千代治、三島卯四郎、庄司陸太郎、橋内徳治、河野正吉(機)

上 流(昭和一六― ) 上流部の改修であるが、一ノ関辺の流量は下流のものより大量であるから、本支流に調節用ダムを作る。昭和二十四年の改訂で計画を拡大した。

(匹田敏夫、池田徳治、計画は富永正義)

池田徳治、若林正次、有本欣二、川瀬正俊、佐藤源蔵、笠原宏、三島勇、黒井俊治

### 阿賀野川

低 水(明明一四―一九) (沖野忠雄) 現場人不明

改 修(大正四―昭和八) (渡辺六郎、新開寿之助、青山士、岡村利重)

徳永保喜、平田全祐、後藤登、田中隆作、中川茂兵衛

### 富士川

低 水(明治一六― ) (山田寅吉、田辺義三郎、石黒五十二)

現場は小林八郎、その他不明

改 修(大正九― ) (中川吉造、真田秀吉、辰馬鎌蔵、谷口三郎、鈴木雅次)

福田次吉、鷲尾蟄竜、佐分利三雄、安芸峻一、西尾辰吉、阿部清紀、中村保、境隆雄、遠藤守一本荘秀一

### 庄川

低 水(明治二六― ) (沖野忠雄、石黒五十二、小柴保人) 現場人不明

改 修(三三―大正元) 流末に新放水路を作り、伏木港を修めた工事である。(小柴保人)

今泉安之助、坂本丹治、大飼寿太郎、岡村利重、雇時代の寺崎新策

再改 修(昭和一五― ) (蒲牟、山田三郎、富永正義、阿部清紀)

後藤登、金子南滝、寺井三郎

### 阿武隈川

低 水(明治一七― ) (沖野忠雄、石黒五十二、小林八郎) 現場人不明

上流改修(大正八― ) (三池貞一郎、坂本丹治、福田次吉、田淵寿郎、三島卯四郎、金森誠之、匹田敏夫、池田徳治)

中村秀太郎、伊藤百世、杉谷茂、野瀬正人、山東功、長浜時雄、武田裕、小池啓吉、川瀬正俊、谷垣博

最上川

下流改修(昭和一一) (福田次吉、田淵寿郎、三島卯四郎、金森誠之、匹田敏夫、池田徳治)  
三島卯四郎、山東功、深井浩三、庄司陸太郎、橋内徳治、有本欣二、佐々木茂

低 水(明治一七―三六) (沖野忠雄、石黒五十二、小柴保人) 現場役所は酒田で主任は属官中村義也等  
改 修(大正六一) (酒田港含む) 支川赤川に放水路を開いた大工事

(三池貞一郎、今泉安之助、新開寿之助、青山士、伊藤百世、蒲葺、山田三郎)  
臼井清彦、野村年、阪田昌亮、坂上文三郎、山田三郎、篠田義直、後藤登、田淵寿郎、工藤久夫  
西山忠一、玉井正彰、桐谷一男、小野寺

上流改修(昭和八一) (青山士、伊藤百世、蒲葺、山田三郎)  
大塩政次郎、玉井正彰、桐谷一男

筑後川

低 水(明治一七―三一) 川口より大分県隈町迄(石黒五十二、沖野忠雄、岡胤信、日下部弁次郎)  
現場人不明

改 修(二九―三六) 所々に捷路を作つた。(沖野忠雄、中原貞三郎)  
渡辺六郎、原静雄

第二次改修(大一一) 前回改修を更に拡大し、区域も広くした。  
(安達辰次郎、片山貞松、村幸長、金古久次、牧野雅楽之丞、三浦七郎、鮫島茂、伊藤百世、金

吉野川

森誠之、松尾守治、和田重辰、加藤伴平)  
大津道雄、松波秀一、塚本積、住田秀、阿部一郎、上山鉄之助、矢賀部猖介、竹下巖之助、大野  
唯糊、小西即良

低 水(明治一八―二三) 第十以下の別宮川航路改良の低水工事を内務省施行し、その他の堤防工事は  
徳島県施行中、二十一年西覚円等にて堤防決壊し、人民工事中止を乞い、遂に二十二年度限り中  
止した。堤防工も内務省監督した。

(田辺義三郎) 日下部弁二郎、その他不明  
改 修(四〇―昭和二) 別宮川を拡大して放水路とし、上流は旧堤拡築及断続堤を作る。

(沖野忠雄、中原貞三郎、青木元五郎、岡崎芳樹、真田秀吉、(囑託) 川上新太郎(機)  
田中吉二、三浦短明、市来尚治、小田林、植原勇、三輪周蔵、坂本助太郎、中村秀太郎、浜田正  
彦、安東功、田中隆作、加納盛吉(機)

大井川

低 水(明治一七― ) (山田寅吉、田辺義三郎、近藤仙太郎、石黒五十二)  
小林八郎、其外不明

改 修(三一― ) (原田貞介) 現場人不明  
天龍川

低 水(明治一八一三三)(山田寅吉、田辺義三郎、近藤仙太郎、石黒五十二)

小林八郎、其外不明

改 修(大正二二) (前川貫一、辰馬鎌蔵、金古久次、塚本積、田淵寿郎、富永正義、阿部清

紀)

西田敏夫、西尾辰吉、塚本積、千田正重、松久正次、仁科太郎、畑中次雄、畑谷正実、金子収事

### 九頭龍川

改 修(明治三三―四四) (原田貞介、青木元五郎、岡崎芳樹、前川貫一、辰馬鎌蔵、大窪正、(囑託)

川上新太郎(機))

上 流(明治四三―大正一三) (支川も追加したもの) 上下流を通して現場は、名井九介、徳田文作、

中村秀太郎、松波秀一、杉谷茂、小田林、荻原基治、千田正重、西尾辰吉

### 遠賀川

(明治三九―六七) (沖野忠雄、原田貞介、(囑託)川上新太郎(機))

南齋孝吉、田中吉二、大津道雄、辰馬鎌蔵、植原勇、田中寛二

### 高梁川

(明治四〇―昭和二) 東派川を締切り西派を拡大す、附帯工事東西用水あり。

(沖野忠雄、中原貞三郎、青木元五郎、岡崎芳樹、真田秀吉)

田賀奈良吉、後藤運平、犬飼寿太郎、植原勇、山下輝夫、和気覚次郎

### 渡良瀬川

改 修(明治四三―昭和一) 下流に大遊水池を設け、上流は岩井まで本川支川を修築す。

(近藤仙太郎、中原貞三郎、中川吉造、名井九介、(囑託)川上新太郎(機))

安達辰次郎、清水一徳、村幸長、都々木春美、坂田昌亮、久保田豊、匹田敏夫、西尾辰吉、鷺尾

塾竜、田崎二三次(機)小松郁次郎(機)

維 持(大正二二) (利根川を見よ)

増 補(昭和一四) (遊水池堤防の拡築、利根川を見よ。)

上 流(昭和一六) (谷口三郎、鈴木雅次、山下輝夫、岩沢忠恭)

本城信治

### 荒川

下流改修(明治四四―昭和五) 岩淵以下の大放水路工事である。

(近藤仙太郎、中原貞三郎、中川吉造、真田秀吉、名井九介、(囑託)川上新太郎(機)、計画は沖野忠雄、原田貞介)

比田孝一、市来尚治、青山士、小笠原酉三郎、福田次吉、森田三郎、金丸正春、池田信、山口昇  
原口忠次郎、宮崎正夫、西尾辰吉、小野竜一、渡辺弥作、中間友義、松尾春雄、宮本武之輔、米  
田正文、山本亨、鈴木健二、兵藤直吉、本間源兵衛(機)小松郁次郎(機)湯本久右衛門(機)  
上関徳也(機)尾藤剛(機)



上 流（大正七―昭和二九）熊谷辺迄長区間の改修で、川幅広き所に横堤を作り、游水せしめた。

（中原貞三郎、中川吉造、真田秀吉、辰馬鎌蔵、谷口三郎、鈴木雅次、山下輝夫、岩沢忠恭、計画は沖野忠雄、物部長穂）

片山貞松、辰馬鎌蔵、金吉久次、笈斌治、春木節郎、金森誠之、岩沢忠恭、砂治国良、上井兼吉、金丸正春、安藤秀夫、宮田隆一郎、藤芳義男、藤森謙一、五十嵐醇三、片平信實、横田周平、楠本幹夫（機）

維 持（昭和五― ）（真田秀吉、辰馬鎌蔵、谷口三郎、鈴木雅次、山下輝夫、岩沢忠恭）

笈斌治、春木節郎、金森誠之、岩沢忠恭、砂治国良、伊藤信

### 雄物川

改 修（大正六―昭和一七）（土崎港を含む）新屋に大放水路を開削し、土崎港を修築した。

（今泉安之助、三池貞一郎、坂本丹治、福田次吉、田淵寿郎、三島卯四郎、金森誠之、匹田敏夫、池田徳次）

荒井釣吉、米島良亮、阿部一郎、野瀬正人、池田徳治、加藤正晴、磯部磯七、照井隆三郎、庄司陸太郎、和里田新平、谷垣博

上 流（昭和一八― ）（匹田敏夫、池田徳治）加藤正晴、池田徳治

### 江合鳴瀬川

（大正六― ）江合川を鳴瀬川へ落し、鳴瀬を拡大する。昭和二十四年の改訂計画にて目下

工事中である。

### 多摩川

改 修（大正七―昭和八）（中原貞三郎、比田孝一、中川吉造、真田秀吉、名井九介）

辰馬鎌蔵、金森誠之、末松栄、樫部保

上 流（昭和七― ）（真田秀吉、辰馬鎌蔵、谷口三郎、鈴木雅次、山下輝夫、岩沢忠恭）

樫部保、藤芳藤男、川村満雄、中村政男

維 持（昭和八― ）人は上流と同一

### 加古川

（大正七―昭和一〇）（岡崎芳樹、真田秀吉）

後藤運平、山内喜之助、荻原基治、中尾光信、和気寛次郎

### 岩木川

（大正七― ）（三池貞一郎、坂本丹治、福田次吉、田淵寿郎、三島卯四郎、金森誠之、匹田敏夫、池田徳治）

大久保清長、平田全裕、安東功、長浜時雄、上山鉄之助、池田徳治、渡辺弥作、福来総十郎、三島卯四郎、武田裕、横山幹太、比留間豊

神通川

(大正七―昭和一二) (渡辺六郎、新開寿之助、青山士、伊藤百世、蒲孚、山田三郎、富永正義  
阿部清紀)

坂本丹治、浅見洋、高橋嘉一郎、小野竜一、大塩政次郎、平尾勝、金子南滝

千曲川

(大正七― ) (渡辺六郎、新開寿之助、青山士)

島重治、新開寿之助、塚本積、匹田敏夫、鋤柄小一、金子南滝、山田三郎、寺井三郎、砂治園良

大田川(静岡県)

(大正八―昭和八) (比田孝一、中川吉造、前川貫一、辰馬鎌蔵)

松波秀一、匹田敏夫、西尾辰吉、清水武雄

阿賀川阿武隈上流(福島県内)

(大正八― ) (三池貞一郎、坂本丹治、福田次吉)

中村秀太郎、平田全祐、伊藤百世、杉谷茂、野瀬正人、田中隆作、前園千代次、山東功、長浜時  
雄、武田裕、小池啓吉、川瀬正俊

円山川

(大正九―昭和一二) (岡崎芳樹、片山貞松、真田秀吉、坂本助太郎、高西敬義)

大銅寿太郎、荻原基治、中尾光信、小野道人

斐伊川

(大正一一― ) 特色は下流では定川を拡大し、他の派川を締切つた。

(片山貞松、真田秀吉、坂本助太郎、高西敬義、佐藤利恭、高橋嘉一郎、和田重辰)

山岸安二、和氣覚次郎、成松清雄、三好宗逸、竹下巖之助、久世秀明

蘆田川

(大正一一― ) (岡崎芳樹、真田秀吉、坂本助太郎、高西敬義、佐藤利恭、高橋嘉一郎、

和田重辰) 植原勇、山内喜之助、井上清太郎、和氣覚次郎、山岸安二、成松清雄、金丸正春、久

世秀明、大塩政治郎、工藤久夫、西畑勇夫

紀ノ川

(大正一一― ) (真田秀吉、坂本助太郎、高西敬義、佐藤利恭、高橋嘉一郎、和田重辰、

三浦矩明)

田淵寿郎、坂上丈三郎、井上清太郎、大野台助、水野高明、湯山熊雄、大島太郎、三島卯四郎、

蒲池浪統

千代川

(大正一一― ) 袋川を市外に附替え、且つ本川流末に新水路を開削した。

(片山貞松、真田秀吉、坂本助太郎)

小野竜一、荻原基治、中尾光信、山岸安二、小野道人、諸井英一、成松清雄、小林真一

緑川

(大正一四一) (片山貞松、村幸長、金古久次、牧野雅樂之丞)  
三島卯四郎、和田重辰、田中隆作、住田秀、芥川暉雄

旭川

(大正一五一) (真田秀吉、坂本助太郎、高西敬義、佐藤利恭、高橋嘉一郎、原口忠次郎、阿部一郎)

鬼怒川

中村秀太郎、山内喜之助、和氣覚次郎、坂上丈三郎、大塩政治郎、田賀秀和、山田順治、大野博  
西畑勇夫、中安米蔵、三好宗逸

(大正一五一) (中川吉造、真田秀吉、辰馬鎌蔵、谷口三郎、鈴木雅次、山下輝夫、岩沢忠恭(囑託)平林武、計画物部長穂)

青山士、春木節郎、末森猛雄、安芸峻一、西尾辰吉、伊藤令二、伊藤信、立神弘洋、秋草勲、奥野多喜夫

北川

(大正一五一) (前川貫一、辰馬鎌蔵、金古久次、塚本積、田淵寿郎)

松久正治、千田正重、清水武雄、三池鎮浪、西山忠一

大淀川

狩野川

(昭和二一) (片山貞松、村幸長、金古久次、牧野雅樂之丞、三浦七郎、鮫島茂、伊藤百世、金森誠之、松尾守治、和田重辰、加藤伴平)  
長浜時雄、本莊秀一、竹下巖之助、菊池忠雄

(昭和二一) (大体竣工の後長岡より海まで放水路を作ることとした。)

(中川吉造、真田秀吉、辰馬鎌蔵、谷口三郎、鈴木雅次、富永正義、阿部清紀)  
徳永保喜、井口鹿象、蒲孚、境隆雄、後藤登、中村保、竹下巖之助、池田雄二

渡川

(昭和四一) (坂本助太郎、高西敬義、山内喜之助、寛斌治、原口忠次郎)  
後藤登、鋤柄小一、山田順治

那賀川

(昭和四一) (前同)

松久正次、蒲池浪統、野瀬正人、早田英夫

大野川

(昭和四一) (金古久次、牧野雅樂之丞、三浦七郎、鮫島茂、伊藤百世、金森誠之、松尾守治、和田重辰、加藤伴平)

松波秀一、塚本積、竹下巖之助、村野為治、矢賀部彌介、中尾光信、古河順治、田中寛二

木津川

(昭和五―) (坂本助太郎、高西敬義、佐藤利恭、高橋嘉一郎、和田重辰)  
山下輝夫、金丸正春、和氣寛次郎、小林真一

川内川

(昭和六―) (金古久次、牧野雅楽之丞、三浦七郎、鮫島茂、伊藤百世、金森誠之、松尾  
守治、和田重辰、加藤伴平)

山田三郎、村野為治、田中隆作、田中寛二、上ノ土実、矢賀部猫介、五十嵐静

大田川(広島県)

(昭和七―) (上流部は普通修築で、広島市内は山手川を放水路と改め、其他の派川を締切  
り、市内には平水量を通せしむ。)

(坂本助太郎、高西敬義、佐藤利恭、高橋嘉一郎、原口忠次郎、阿部一郎)

山内喜之助、荻原基治、山岸安二、工藤久男、田村義正

安倍川

(昭和七―) (辰馬鎌蔵、金古久次、塚本積、田淵寿郎、富永正義、阿部清紀)

蒲罕、後藤登、中村保、池田雄二、伊藤令二

菊川

(昭和八―) (前同)

矢作川

西尾辰吉、松久正次、仁科太郎、畑中次男、金子収事、千田正重

(昭和八―) (前同)

都々木春美、梶谷薫、諸井英一、福田秀夫

小貝川

(昭和八―) (真田秀吉、辰馬鎌蔵、谷口三郎、鈴木雅次、山下輝夫、岩沢忠恭)

阿部清紀、鷺尾蟄竜、匹田敏夫、宮田隆一郎、西尾辰吉、伊藤令二、岩元正、山本三郎

烏川神流川

(昭和八―) (前同)

阿部清紀、匹田敏夫、立神弘洋、森経義、中沢安蔵、本城信治、磯崎寿、平野敏

手取川

(昭和九―) (金古久次、塚本積、田淵寿郎、富永正義、阿部清紀)

鷺尾蟄竜、金子南灌、西山忠一、佐治裕

天神川

(昭和九―) (高西敬義、佐藤利恭、高橋嘉一郎、和田重辰)

中尾光信、山岸安二、和氣寛次郎、久世秀明、諸井英一、成松清雄

小矢部川

常願寺川

(昭和九一) (伊藤百世、蒲孚、山田三郎、富永正義、阿部清紀)  
大島太郎、小野竜一、鷺尾蟹竜、後藤登、金子南滝、寺井三郎

米代川

(昭和一一) (前同)  
小野竜一、杉本培吉、鷺尾蟹竜

馬淵川

(昭和一一) (福田次吉、田淵寿郎、三島卯四郎、金森誠之、匹田敏夫、池田徳治)  
阿部一郎、渡辺弥作、福来総十郎、三島卯四郎、池田徳治、加藤正晴、武田裕、谷垣博

黒部川

(昭和一一) (田淵寿郎、三島卯四郎、金森誠之、匹田敏夫、池田徳治)  
前園千代次、関川精治、鬼頭満男、佐藤肇

大和川

(昭和一一) (伊藤百世、蒲孚、山田三郎、富永正象、阿部清紀)  
小野竜一、山崎博、早田英夫、鷺尾蟹竜

(昭和一一) (高西敬義、佐藤利恭、高橋嘉一郎、和田重辰)  
山下輝夫、諸井英一、荻原基次、小野道人、大島太郎、稻垣茂樹、三島卯四郎、小林真一、和氣

球磨川

覚次郎、大塩政治郎

(昭和一一) (三浦七郎、伊藤百世、金森誠之、鮫島茂、松尾守治、和田重辰、加藤伴平)

肝属川

田中隆作、住田秀、上ノ土実、田中寛二、矢賀部猖介、上山鉄之助

(昭和一一) (前同)

久慈川

竹下巖之助、菊池忠雄、上ノ土実、矢賀部猖介、五十嵐静

(昭和一一) (谷口三郎、鈴木雅次、山下輝夫、岩沢忠恭)  
宮田隆一郎、山本三郎、境隆雄

豊川

(昭和一一) 豊橋上手にて本川を締切り、平水を通し、右方に放水路を作る。

(金古久次、塚本積、田淵寿郎、富永正義、阿部清紀)

千田正重、池本泰児、諸井英一、畑谷正実、梶谷薫、神田九思男

鶴見川

(昭和一一) (三輪周造、和田重辰、山下輝夫、岩沢忠恭)

猪名川

阿部清紀、末松榮、中村政男

(昭和一五―) (佐藤利恭、高橋嘉一郎、和田重辰)

小野道人、萩野燦、武田良一、中島武、山田順治

菊池川

(昭和一五―) (伊藤百世、金森誠之、鮫島茂、松尾守治、和田重辰、加藤伴平)

上山鉄之助、矢賀部猖介

大分川

(昭和十六年) (前同)

中尾光信、古河順次、田中寛二

名取川

(昭和一六―) (匹田敏夫、池田徳治)

庄司陸太郎、大島太郎、橋内徳治、天埜良吉、幸野弘道、関川精治

那珂川

(昭和一七―) (山下輝夫、岩沢忠恭)

山本三郎

庄内川

鈴鹿川

(昭和一七―) (富永正義、阿部清紀)

三池鎮浪、庄司陸太郎

(昭和一七―) (前同)

諸井英一、池本泰児

肱川

(昭和一九―) (原口忠次郎、阿部一郎)

小野道人

佐波川

(昭和一九―) (前同)

金子南滝、兼重信雄

重信川

(昭和二〇―) (前同)

小野道人

### 北海道の河川

(本庁内名井九介、伊藤長右衛門、) 齊藤静修氏調及道庁拓植概要  
(斎藤静修、岩崎雄治、宮崎正夫) による。一年未満の人名省く

石狩川 道庁直管、以下諸川皆同し、

調査時代 岡崎文吉、雨宮弘一、坂本亀五郎

改修 (大正七年頃着手) (名井九介) 有泉栄一、河合治八郎、保原元治、町田利臣

第一期拓殖計画 (明治四三―昭和一) 掘削、浚渫、護岸 (江別、夕張、千歳、豊平の支川を含む)

高田善藏、小川譲二、小崎弘郎、三丁目喜一郎、高田実

第二期拓殖計画 (昭和二―二二) 同右の工事、

坂本亀五郎、愛甲隆俊 (機) 石田鼎、馬島進、山崎一明、横尾英雄、上戸斌司、森田義育、宮永敏夫、奈良清、高瀬正、中田勝一 (夕張川には保原元治、馬島進)

### 常台川

一期 (大正二〇―昭和一) 築堤、護岸、水門。斎藤静修、吉田光夫

二期 (昭和二―三) 同 右

### 釧路川

一期 (大正二〇―昭和一) 掘削、浚渫、築堤。斎藤静修、吉田光夫

二期 (昭和二―五) 同 右

### 十勝川

(昭和三―二二) 網走川 (昭和九―二二) 湧別川 (昭和九―二二) 渚滑川 (昭和九―二〇) 天塩川 (昭和九―二〇) 共に掘削、築堤、護岸

斎藤静修、岩岡武博、玉木政貴、池田一郎、黒沢文雄、芦田英太郎、中田勝一

### 利別川 (後志国)

### 中小河川改修

(昭和九―二二) 掘削、築堤、護岸。人名不詳  
九十六河川

### 町村河川改修

(昭和七―九) 築堤、切替、水制。人名不詳  
数々  
(昭和二―二二) 築堤、切替、護岸。人名不詳

### 台湾の河川

浜田正彦氏記憶其他による。(総督府土木課長山形要助、田賀奈良吉、中村秀太郎、浜田正彦)

### 會文溪

(昭和六―一四) 山地勇、其外

### 烏溪

(昭和六―一四) 森志計理、其外

### 頭前溪

(昭和二―二〇) 山路勇、其外

### 下淡水溪

(昭和二―二三) 浜田正彦、森志計理、貴田馨、外

### 宜蘭濁水溪

(昭和四—一二) 人名不明

急水溪、八掌溪、阿公店溪、の改修は年代不明、又短区間の改修は淡水溪、後龍溪、濁水溪、花蓮溪、卑南大溪、である。

技師は前記の外、川上謙太郎、青柳晴一、牧野八郎、久原中吾、塩隆義、佐々木泰三、水尻倉太郎、杉田文雄、中川真藏であるが、従事河川不明。

### 朝鮮の河川

人名は本間孝義、勝原享三両氏の記憶による。記名漏もあるべし。(土木課長榛葉孝平、横井増治、河川係長本間孝義は全川に關与す)

- 万項江 (大正一四—昭和五) 川沢章明、武居軍次郎、伴格夫、辻川勝雄、菊池新吉、勝原享三
- 錦江 ( ) 三
- 梁山江 ( )
- 載寧江 (大正一四—昭和五) 待山義雄
- 漢江 (昭和一一—九) 本間徳雄、川沢章明、町田久寿男、内田弘四、長郷衛二、福西正雄
- 洛東江 (昭和一一—一〇) 杉谷茂、待山義雄、福光昂、村田佳六
- 龍興江 (昭和一一—一〇) 長郷衛二、中島強、菊地朝夫、老田務
- 大同江 (昭和一一—一三) 八島茂、待山義雄、福西正雄、菊地新吉
- 城川江 (昭和一一—三) 長郷衛二

- 鴨綠江 ( ) 三 秋月榮治
- 臨津江 ( )
- 大寧江 (昭和六一—一二)
- 清川江 (昭和六一—一二)

### (二) 砂防 (蒲乎、赤木正雄、其他の調による。人名は終戦後の人省く。)

- 淀川 木津川筋棚倉(明治五—一二) 山腹工なり。京都府施工、属官市川義方其他
- 本川筋 明治十一年より 明治三十年頃以前は計画は蘭人デレーケ之に当り、現場は技師井瀬田川筋 上清太郎、技手黒沢虎祐、技手夏川省吾其他であり、三十年頃以後
- 木津川筋 直轄施工 は井上清太郎、赤木正雄、技手市村忠藏、技手広江鋼三郎、(手)桂川筋 山中道一、(手)竹沢鉄藏、(手)山元長藏、(手)森田孝三郎等
- 野洲川筋(明治一六—三九) 滋賀県施工、人名不明
- (大正四—一三) 国直轄施工、人名不明
- 右は皆山腹工なり。
- 木曾川 揖斐川筋、般若谷等 (明治一一—三〇) 山腹工なり。人名不明
- 本川筋
- 長良川筋



揖斐川筋 (昭和二一) コンクリート堰堤工。荒井荒三郎

中津川、落合川 (昭和二二) 同右。伊吹正紀、松川恒雄、

信濃川 犀川、千曲川筋 (明治一三—二二) 山腹工。人名不明 (二七—三八)

犀川上流梓川筋 (大正七—) コンクリート堰堤。杉本培吉、柿徳市、坂東利和、(手) 松山幹之

魚野川筋 (昭和二一—) (手) 二谷西雄、(手) 鈴木恒光

利根川 烏川筋、榛名山腹白川 (明治一五—二七) 人名不明、主として石堰堤

鬼怒川筋稻荷川 (大正七—) コンクリート堰堤。蒲孚、遠藤守一、(技手) 福本篤三、(技手) 土佐寛正

同 男鹿川 (昭和六一—七) 同右。人名不明

鳥川筋 (昭和一一—) 同右。遠藤守一、磯崎寿

渡良瀬川筋、足尾 (昭和二一—) 同右。遠藤守一、坂東利和

庄川 (明治一六一—一八) 山腹工。人名不明

富士川 御勅使川、小武川、大柳川、春木川筋 (明治一六一—二五) 山腹工。井上清太郎、其他不明

御勅使川筋 (大正五—) コンクリート堰堤。蒲孚、(技手) 荒井三七

笛吹川筋、日川 (明治四四—) コンクリート堰堤。南部常次郎、安達辰次郎、蒲孚、鷺尾

蟄竜、遠藤守一、荒井荒三郎、(手) 斎藤謙次郎 (手) 荒井三七

釜無川筋 (昭和七—) 遠藤守一、(手) 山中道一、其外

吉野川 曾江谷 (明治一八一—二二) 山腹工。人名不明

〃 (大正四—九) コンクリート堰堤。赤木正雄、其外

常願寺川 (立山水系) (明治三九—大正一一) 石造堰堤、富山県施工、人名不明

(昭和一一—) コンクリート堰堤。赤木正雄、高橋嘉一郎、小野竜一、鷺尾蟄竜

杉本培吉、河北正治、本多博明、青木堅司、

柿徳市

手取川 (白山水系) (大正一一—昭和一一) 石造堰堤。石川県施工、人名不明

(昭和二一—) コンクリート堰堤。赤木正雄、伊吹正紀、鷺尾蟄竜、荒井荒三郎

相模川以下は皆コンクリート堰堤。遠藤守一

酒匂川 蒲孚、遠藤守一、五十嵐真作、桑原芳樹

(大正一一—) 蒲孚、遠藤守一

早水川 蒲孚、遠藤守一、杉本培吉

石井来太郎

神通川 宮川、高原川筋 (大正八—) 人名不明

(昭和七—) 高橋嘉一郎、小野竜一、鷺尾蟄竜、橋本規明、本多利行

斐伊川 (遠藤隆一)

- 肱川 (昭和一九一) 人名不明  
 天神川 小鴨川筋 (昭和一一一) 坂井秀正  
 阿武隈川 荒川、松川筋 (昭和一一一) (計画は杉本培吉) 伊東直行  
 庄内川 (昭和一二一) 人名不明  
 最上川 立谷沢川筋 (昭和一二一) 小野寺庸夫、伊藤道夫、篠田義直、後藤登、吉田与一  
 安倍川 (昭和一二一) 坂東利和、遠藤守一、古平信雄 (計画は蒲季)  
 天龍川 小洪川筋 (昭和一二一) 伊吹正紀、中沢安蔵  
 鈴鹿川 (昭和一七一) 松山幹之  
 六甲山諸溪流 (昭和一四一) (寛斌治、小野竜一、原口忠次郎、大島太郎)  
 小野道人、中島武、野瀬正人、深谷克海、武田良一、山田順治、青笹慶三郎  
 奥野多喜夫、杉本培吉、草川清康、遠藤隆一  
 土岐川 (昭和一四一) 伊吹正紀  
 中津川 (昭和一四一) 伊吹正紀

### (三) 港

### 湾

(運輸省日本港湾修築史、同所東寿、齋藤静修、友人調等を参照した。終戦後の人省く。)

港湾は外人技師により、大阪、新潟、東京等明治初年より調査計画を初めたが、着工するに至らなかつた。実  
 際施工せるは慶応元年(一八六五)仏人大技士ヴェルニ等五十余人来り、横須賀造船所と軍港と波止場や水道

を作り、明治八年(一八七五)竣工した。次は坂井港(三國)の十一年着手、十八年竣工であつて、蘭人工師エ  
 ッセル、デレーケの計画であつた。野蒜はドールンの計画で、十一年着手大部分成工せるも土砂にて埋没のため  
 十七年放棄した。長崎は初め十五年一二年間に施工した。三角は蘭人ムルデルの計画で十七年着手二十年竣工  
 す。宇品は十七年より二十二年十一月迄に広島県令千田貞暁の苦心経営に成りたるもので(県営)、日清、日露  
 の戦争に功を發揮した。

大正七年以後は地方港湾(小港)にも国庫補助の道を開き、続々着手せられた。農林省主管の漁港も多数着手  
 された。又民間にて築港や埋立工事が諸方に興つた。

内務省の港湾調査会は明治三十九年設置され、全国港湾の内百二十港を選び、これを国営港、国庫補助地方港  
 地方港に分類した。即ち国港は第一種重要港であつて横浜、神戸、関門海峡、敦賀を指定し、補助を与ふるもの  
 は第二種重要港として、大阪、東京、長崎、青森、新潟、境、鹿児島、伊勢湾内の一港、仙台湾内の一港、秋田  
 海岸の一港とし、その他を第三種港とし、順次施工することとした。その後多少の追加変更を見たが、大体の骨  
 子は右の通りであつた。昭和十八年十一月一日以後港湾は運輸省所管となる、

横 浜 ( ) は本庁内の署長、技師、その他は現場人。

明治初年の築港は何れも小港であつたが、大規模の港は横浜が最初である。明治七年蘭人ドールンの計画あり、  
 八年英人ブラントンの計画あり、次に十九年デレーケおよび英人パーマーに調査せしむ、二十一年此兩人の計画  
 をムルデルに審査せしめ、その結果パーマーの案を採用と決定し、その監督により、二十二年九月着工し二十九  
 年五月竣工した。工事は防波堤および鉄大棧橋であつた。三十年には港内浚渫を初めた。

計画や監督には石橋詢彦、石黒五十二も参加した。現場施工の技師は三田善太郎、土田鉄雄、山崎鉦次郎等であつた。次の拡張工事は左の如し

第二期(明治三二―三三) 拡張工事。大蔵省の税関設備工事であつて、埠頭工と埋立と水深増加と陸上設

第二期(三九―大正六) 備を主とす(計画に参加した人は古市公威、中山秀三郎、沖野忠雄)

施工に従事した人は、高田善一、丹羽鋤彦、矢橋賢吉、坂田鳴海、早田鉄之助、直木倫太郎、管道匠、横山徳太郎、浅井芳之助であつた。

第三期工事(大正一〇―昭和二一中止) 内務省所管で、埠頭増加と外防波堤を主とす。

(安芸杏一、木津正治、春木節郎、三輪周蔵、和田重辰、山東功、阿部清紀)

安芸杏一、木津正治、糠沢惟助、岡部三郎、鈴木雅次、横井増治、鮫島茂、樗木篤夫、田吹行雄

島野貞三、蔵重長男、松尾春雄、黒田静夫、天笠良吉、原田忠次、坂本信雄、山田正平、栗栖義

明、宮武亮三郎(機) 楠本幹夫(機)

## 若 松

築港会社時代(明治二三―昭和二〇) 相良常雄、横井鋼太、井上範、徳田文作、田中熊彦、このうち徳田氏は永年従事した。

内務省時代第一期(昭和七―一二) (金古久次、牧野雅楽之丞、三浦七郎、松尾守治)

第二期(昭和一一―一五) (牧野雅楽之丞、三浦七郎、鮫島茂、伊藤百世)

松尾守治、片岡謙、江口辰五郎、前田一三、上野省二、河野正吉(機)

## 名 古 屋 (愛知県管である。) 奥田氏尤も長年従事した。

第一期(明治二九手―四四) 熱田築港の名にて初まる。遠浅の海岸に新に港を作つたもの。

(江森盛孝) 黒田豊太郎、奥田助七郎

第二期(明治四三―大正八) 名古屋築港と改名して拡張工をなした。

(中山秀三郎) 黒田豊太郎、奥田助七郎、湯川秋生、近藤一郎

第三期(大正九―一五) 拡張工事なり(原田貞介、丹羽鋤彦、安芸杏一等の審議ありし) 奥田助七郎、加藤

啓三郎、広瀬藤蔵、森田米吉、越野鉄次郎、寺田三男、伊藤又吉、若林弘美

第四期(昭和二―一五) 奥田助七郎、志田順作、田原正則、金津尚一、中本利夫、市村定吉、日野博、阿部

渠、三上恒

第五期(昭和一一―二〇) 田原正則、市村定吉、三上恒、川上留吉、鈴木誠一、飯尾鉦、水下彦作、三枝旭

大村覚、山村理三、河合清、田宮信夫

## 大 阪 (市管)

明治二年英人プラントン、五年蘭人ドールン、六年以後蘭人ドレーケの調査あり、二十九年ドレーケの計画案を内務省の調査会にて修正し、これを基本として、三十年大阪市管にて着手した。これは安治川口の左側に新に築いたものである。本港修築始末は特に第二編沖野博士伝中に詳記した、一八六頁以下見よ。

第一次(明治三〇―昭和三) 所長西村捨三、工事長沖野忠雄で頗る大規模で諸種の機械を買入れ使用した。

工務課長岡胤信、技師植木平之丞、西尾虎太郎、小林泰蔵、島重治、中川壯助、丸田覚、田川正

長崎

二期、森垣亀一郎、茂庭正、杉卯七、鶴田伝次郎(機) 嘉納謙作(機) 高松政正(化)  
第二次(昭和三一―三二)第一期は(直木倫太郎) 横山徳太郎、松田健作、近藤博夫、福留並喜、内山新之助  
第二期は宮内義則、中原武、近藤幸夫

修築(明治一五―二三)一部の施工である。人名不明

第一次工事(明治三〇―三六) 県営。南部常次郎

修築工事(大正九―昭和二) 内務省施工(安達辰次郎、片山貞松) 岸壁を主とす、三好貞七、山田三郎

新潟

明治四年英人プラントン、六年蘭人リンドウ調査し、十二年蘭人エッセルは信濃川大河津以下河口まで調査し、十四年蘭人ムルデルは河口突堤および河身改修計画を立てた。

河口修築(明治三〇―三六) 信濃川改修の一部として川口防波堤と浚渫をなす。

(小柴保人) 土田鉄雄、安芸杏一

信濃川口改修(明治四〇―大正一五) (小柴保人、渡辺六郎、新開寿之助) 安芸杏一、坂本丹治、加納盛吉

(機) 宮武亮三郎(機)

第一次修築(大正四―一四) 突堤、岸壁、浚渫を主とす(沼垂側) (渡辺六郎、新開寿之助) 安芸杏一、坂

本丹治、大島太郎

第二次改修(昭和一四―二〇) (蒲平、山田三郎) 山田三郎、寺西弘治、小山猛三、湯山熊雄、渡辺弥作、坂本信雄

三池

第一期(明治三五―四一) 三池炭鉱の経営なり(顧問石黒五十二) 植木平之丞

第二期(大正一五―昭和五) 服部省三

第三期(昭和九―一七) 増田養、船津勝

伏木(庄川改修として修築せるを初めとす。

第一期(明治三七―大正二) (小柴保人) 今泉安之助、坂本丹治

第二期(大正二―昭和一一) (新開寿之助、青山士、伊藤百世) 大島太郎、浅見洋、平尾勝、渡辺弥作

第三期(昭和一七―二〇) (山田三郎) 小山猛三、金子南滝、寺井三郎、寺西弘治

東京

明治十四年蘭人ムルデルの計画あり、二十一年在パリのルノ、の意見を徴して古市公威が持帰つたが、実行に至らなかつた。東京市営

隅田川口第一期(明治三九―四四) (直木倫太郎)

同 第二期(明治四四―大正五) (直木倫太郎) 田村与吉

同 第三期( ) (丹羽鋤彦) 梅田清次、田村与吉、赤川文郎

東京港修築(昭和六―二〇) 永井松次郎、森田三郎、赤川文郎、上野長三郎、土井正平

京浜臨海地帯造成(大正二―昭和三) 埋立会社経営、関毅

同 東京側(昭和一二―二〇) 吉岡計之助、内林達一、二宮錠治

同 神奈川側（昭和一二―二〇）白井一郎、是枝実、洞庭謙  
千葉臨海地帯造成（昭和一六―二〇）会社経営、本荘秀一、尾ノ内由紀夫  
神 戸

工事は税関設備として大蔵省所管（明治三七―大正七）であつて、大正八年以後は内務省施行となる。防波堤  
埠頭工事を主とす。

第一期（明治三九―大正一一）大蔵省管（顧問沖野忠雄、丹羽鋤彦、吉本亀三郎、（嘱託）中山秀三郎、渡  
瀬船設計嘱託寺野精一）森垣亀一郎、高西敬義、浅井芳之助、池田諺次、高田善一、鮫島茂

第二期（大正五―昭和二〇）内務省管（原田貞介、市瀬恭次郎、坂本助太郎、高西敬義、山内喜之助、川上  
留吉、寛斌治、原口忠次郎、大島太郎）高西敬義、荒木文四郎、鮫島茂、川上留吉、松尾守治、  
山東功、萩野熾、田村義正、末森猛雄、加藤伴平、後藤憲一、稲浦鹿蔵、柳沢米吉、羽賀正義、  
蒲池浪統、山田三郎、宮内義一、比田正、一戸良清、青柳松二（機）宮武亮三郎（機）  
この外大蔵省陸上設備工事（昭和六一―一三）に糠沢惟助あり。

#### 那 覇

（明治四〇―大正四）港内の岩礁破碎や浚渫、埠頭を主とす。（沖野忠雄）徳田文作

#### 敦 賀

第一期（明治四二―大正二）（青木元五郎、原田貞介、岡崎芳樹、名井九介）平井新六、中村秀太郎  
第二期（大正一一―昭和七）（岡崎芳樹、前川貫一、辰馬隆蔵）千田正重、白井一郎、是枝実

#### 大 分

第三期（昭和一一―二〇）（富永正義）三池鎮浪、土谷実、西部友吉  
第一期（明治四三―大正四）（沖野忠雄、原田貞介）武藤伝蔵  
第二期（昭和七―一七）（金古久次、牧野雅楽之丞、三浦七郎、鮫島茂、伊藤百世、金森誠之）江崎善愛、  
古河順治、矢賀部猖介、中尾光信、蓮尾誌蔵、佐田悦二

#### 四 日 市

第一期（明治四三―昭和三）県管。皿井巖  
第二期（昭和四―一〇）皿井巖、渡辺鋼次郎

#### 関 門 海 峽

海峽整理にて砕岩、浚渫、埋立なり。

第一期（明治四三―昭和三）（沖野忠雄、原田貞介、安達辰次郎、片山貞松）野田孝一、徳田文作、木津正  
治、本間源兵衛（機）小松郁次郎（機）河野正吉（機）

第二期（昭和四―一四）（村幸長、金古久次、牧野雅楽之丞、三浦七郎、鮫島茂、伊藤百世）木津正治、松  
尾守治、住田秀、鮫島茂、福西正男、塚本積、河野正吉（機）

第三期（昭和一一―二〇）（伊藤百世、金森誠之、鮫島茂、松尾守治、和田重辰）鮫島茂、前園千代治、橋  
川保、上野省二、樗木篤夫

#### 船 川

小松島 (明治四四—昭和六) 県営。湯川秋生、牧彦七、近新三郎、中本俊雄、片桐兼次郎

第一期 (大正二—一〇) 県営。連絡船の着く箇所を築く。森田虎起、乾憲一

第二期 (大正二—昭和九) 内務省営。外面に港を開く。(岡崎芳樹、真田秀吉、坂本助太郎) 川上留吉

塩釜 (大正三—五) 宮城県にて施工

第一期 (大正六—昭和七) 内務省営 (市瀬恭次郎、三池貞一郎、坂本丹治) 今泉安之助、伊藤百世、山口十

一郎、前園千代治、青柳松二 (機)、河野正吉 (機)

増補 (昭和七—九) 同右

臨海地帯造成 (昭和一八—二〇) (匹田敏夫) 山東功、幸野弘道、笠原宏 (機)

青森

第一期 (大正三—一三) 県営。南部常次郎、平井新六

第二期 (昭和七—二〇) 内務省営 (坂本丹治、福田次吉、田淵寿郎、三島卯四郎、金森誠之、匹田敏夫) 池

田徳治、天竺良吉、前園千代治、土谷実

酒田

(大正六—一五) 最上川改修の一部として施工 (今泉安之助、坂本丹治) 野村年、坂田昌亮

(昭和八—一七) (坂本丹治、福田次吉、田淵寿郎、三島卯四郎、金森誠之、匹田敏夫) 坂上丈三郎、山田

三郎、篠田義直、後藤登、玉井正彰、小野寺庸夫、久藤久夫

門司

第一期 (大正八—昭和六) 埋立、埠頭を主とす (安達辰次郎、片山貞松、村幸長、金古久次) 木津正治、松

尾守治、山田三郎、本間源兵衛 (機) 小松郁次郎 (機)

第二期 (昭和一三—二〇) (鮫島茂、伊藤百世、金森誠之、松尾守治、和田重辰) 片岡謙、江崎善愛、前園

千代治、橋川保、河野正吉 (機) 室園実 (機)

この外大蔵省陸上設備 (昭和七—一二) (糠沢惟助) 間接に関与す。

下関

第一期 (大正一〇—昭和四) (安達辰次郎、片山貞松、村幸長) 木津正治、松尾守治、河野正吉 (機) 室園

実 (機)

第二期 (昭和一二—二〇) (三浦七郎、鮫島茂、伊藤百世、金森誠之、松尾守治、和田重辰) 鮫島茂、江崎

善愛、中道峰夫、傍島湊、福西正夫、橋川保、古川、河野正吉 (機)

漁港 (昭和七—一六) (金古久次、牧野雅楽之丞、三浦七郎、鮫島茂、伊藤百世) 内林達一

清水

第二期 (大正一〇—昭和一二) 工事中二度の震災あり、工期を延長した。

(安藤杏一、木津正治、春木節郎) 須山英次郎、島野貞三、伊藤令二、湯山熊雄、黒田静夫、山

田正平、横井増治、山極二郎、楠本幹夫 (機) 川上六郎 (機)

境

高 松 (大正一一昭和六) 岡崎芳樹、片山貞松、真田秀吉、坂本助太郎、竿田秀静(県)、杉山才藏(県)、太田寿

今 治 (大正一一昭和三) (市瀬恭次郎、坂本助太郎) 山田三郎、田村義正、黒岩隆

鹿 児 島 (大正一一昭和八) (市瀬恭次郎、坂本助太郎、高西敬義) 山東功、久世秀明

(大正一一昭和九) (安達辰次郎、片山貞松、村幸長、金古久次、牧野雅楽之丞、三浦七郎) 三好貞七、  
山田三郎、片岡謙

舞 鶴

(昭和四一一二) (坂本助太郎、高西敬義) 太田寿

小 名 浜

(昭和四一一三) (坂本丹治、福田次吉、田淵寿郎) 福来総十郎、樗木篤夫

宮 古

(昭和四一一二) (坂本丹治、福田次吉、田淵寿郎) 田吹行雄、加藤正晴

秋 田

(昭和四一二五) (坂本丹治、福田次吉、田淵寿郎、三島卯四郎、金森誠之、匹田敏夫、池田徳治、長久保  
俊夫) 阿部一郎、照井隆三郎、野瀬正人、池田徳治、加藤正晴

七 尾

(昭和四一一七) (青山士、伊藤百世、蒲孚) 大島太郎、平尾勝、小野寺庸夫、佐治裕、南武男、寺西弘治

尾 道

(昭和四一一六) (坂本助太郎、高西敬義、佐藤利恭) 田村義正、金丸正春、湯山熊雄、久世秀明、中沢安  
藏、(雇) 仁科太郎

博 多

(昭和四一二〇) (金古久次、牧野雅楽之丞、三浦七郎、鮫島茂、伊藤百世、金森誠之、松尾守治、和田重  
辰) 松尾守治、橋川保、前園千代治、東寿

苅 田

(昭和四一二〇) (右同) 江口辰五郎、岡部二郎、中道峰夫、福田大正、布施敏一郎、

高 知

(昭和四一二〇) (坂本助太郎、高西敬義、山内喜之助、寛斌治、原口忠次郎) 萩野鱈、大田日出夫

細 島

(昭和四一一四) (金古久次、牧野雅楽之丞、三浦七郎、鮫島茂、伊藤百世) 蓮尾誌藏、青木保雄、江口辰  
五郎、古川順治、中道峰夫

宇 野

明治末頃岡山県にて埋立及護岸をした。これが現在の港地である。品川圭介

唐 津 (昭和七―二〇) 内務省營 (坂本助太郎、高西敬義、佐藤利恭、高橋嘉一郎) 田村義正、山東功、大塩政治郎、久世秀明

飾 磨 (昭和七―一二) (金古久次、牧野榮雅之丞、三浦七郎) 渡辺弥作、蓮尾誌蔵

八 戸 (昭和七―一二) 坂本助太郎、高西敬義) 永井重雄

(昭和七―二〇) (坂本丹治、福田次吉、田淵寿郎、三島卯四郎、金森誠之、匹田敏夫) 三浦義太郎、倉知

義明、佐藤肇、前園千代治、佐々孝門、徳永軍治

三 角

(明治一六―二〇) 工事したことがある。人名不明

(昭和七―一九) (金古久次、牧野榮雅之丞、三浦七郎、鮫島茂、伊藤百世、金森誠之、松尾守治、和田重

辰) 片岡謙、前田一三、芥川暉雄

広 島

(明治一七―二三、一一) 知事千田貞暁が県營で宇品に築港したもの、人名不明

(昭和八―二〇) 宇品の太田川一側に築港したもの (土居憲二郎(県)、坂本助太郎、高西敬義、佐藤利恭、

高橋嘉一郎) 田村義正、後藤憲一、工藤久夫

宇 部

第一期 (昭和八―一二) 山口県營、橋川保

第二期 (昭和一二―二〇) 内務省營 (三浦七郎、鮫島茂、伊藤百世、金森誠之、松尾守治、和田重辰) 江崎善

愛、橋川保、藤野義男

和 歌 山

(昭和八―一二) 紀ノ川口左側に築港したもの。(坂本助太郎、高西敬義) 田淵寿郎、湯山熊雄、蒲池浪統

小 倉

臨海地帯造成 (昭和一五―二〇) 内務省營 (伊藤百世、金森誠之、鮫島茂、松尾守治、和田重辰) 古河順治

### 北海道、樺太の港

北海道庁の拓殖概要及斎藤静修調査による、明治二十年より英人メークにより港灣を調査をした。(道庁内に広井勇、名井九介、伊藤長右衛門、斎藤静修、岩崎雄治、宮崎正夫)(一年未満の人名く)

函 館

明治十二年以來蘭人ムルデルの調査計画あり。十九年一部の工事をなした。

改良工事 (明治二九―三二) 広井勇、菅道匡

第一期拓殖計画 (明治四三―大正七) 西防波堤及防砂堤。岡崎文吉、荒木文四郎

第二期同 (昭和四―二〇) 北防波堤其他。伊藤長右衛門、中村廉次、高倉耕三、平尾俊雄、土屋実、関昌作

小 樽



室

第一期(明治三〇―四一)北防波堤。広井勇、伊藤長右衛門、内田富吉、二木重吉

第一期拓殖計画(明治四一―大正一〇)南防波堤。伊藤長右衛門、池辺稻生、小清水義男、中村廉次、古山

癸一、檜山千里、尾谷口三郎、雇牛島航、雇荒木文四郎、雇神保金衛、

第二期同(昭和四―二〇)埠頭、浚渫、埋立を主とす。檜山千里、叶磯、安芸真考、名倉一夫、坂下芳男

蘭

第一期拓殖計画(大正七―昭和二)防波堤、浚渫(名井九介)伊藤長右衛門、三好貞七、中村廉次、平尾俊

雄、高倉耕二、太田長四郎

第二期同上(昭和一二―二〇)防波堤、埋立。平尾俊雄、安芸真考、池田一男

第三期(昭和一九―)港内機帆船々溜用防波堤。人名不明

釧路

第一期(明治四二―昭和一)明治二十一年以来数度調査計画した。防波堤、砂防堤、浚渫(名井九介)関屋

正中、伊藤長右衛門、三好貞七、二木重吉、高田庄二

第二期(昭和二―二〇)第一期工事の残りと副港。細祐二郎、檜山千里、土谷実、横井鋼太、宇部武熊、平

尾俊雄(氏名は一期二期区分不詳)

留萌

第一期(明治四三―昭和一)防波堤を主とし、防砂堤、留萌川附替、浚渫、内港設備をなす(名井九介)伊

藤長右衛門、横井鋼太、鶴岡留吉、海老塚爾、林千秋、福山常治

稚内

第二期(昭和二―七)林千秋、小松悌二、坂下芳男

網走

(大正二―昭和二)防波堤、砂防堤、浚渫(名井九介)

(昭和二―一九)古山癸一、平尾俊雄、小松悌二、北川達男

根室

(大正八―昭和五)防波堤、浚渫、埋立、外に町営にて防浪工、川の浚渫、繫船岸工事をなす(名井九介)平尾俊雄

岩内

(大正九―一四)一期、二期共防波堤及浚渫なり(名井九介)二木重吉、高田庄二、井村喜代治、近多光義

(昭和二―一八)御町徳太郎、池田一郎

浦川

(明治四〇―大正八)町営にて防波堤、防砂堤、浚渫(名井九介)

(大正九―昭和二)道庁国営にて船溜防砂堤、浚渫(長谷川正義)

(昭和二―二二)防波堤、船溜防波堤、浚渫、埋立

浦川

(大正二〇―一一)防波堤、船溜突堤

(昭和二―四)防波堤、船溜突堤、浚渫、埋立。中村廉次、安芸真考、池田一男、中川直躬(前後工事の区

分不明)

江 差 (漁港)

(大正二—昭和二) 防波堤、船澗突堤、埋立 (名井九介)

(昭和二—三) 榎山常治、細祐次郎

沓 形 (漁港)

( ) 山田昇太郎、古山癸一

紋 別 (漁港)

(大正二—昭和二) 防波堤、船澗、浚渫、埋立 (名井九介) 小松悌二

(昭和二—五)

余 市 (漁港)

(昭和五—一五) 防波堤、防砂堤、船澗突堤、埋立。細祐次郎、浅野基彦、宮前喜藏、馬島進、倉島一夫

広 尾 (漁港)

(昭和四—一七) 防波堤、船澗突堤、浚渫、埋立。馬島進、宮前喜藏、馬場弘

天 壳 (漁港、天塩の島にあり)

(昭和七—八) 防波堤、船澗防波堤、埋立。井村喜代治

柏 原 (北千島)

(昭和一八—二〇) 防波堤、浚渫。人名不詳

播 針 湾 (幌筵島)

小 漁 港 二十七個所補修 (昭和二三—一六) 防波堤。人名不詳

小 漁 港 三十個所。船澗築設 (昭和七—一〇) 防波堤、船澗突堤、浚渫、埋立。人名不詳

大 泊 (樺太) (昭和一七—二二) 人名不詳

(明治四四—四五) 埋立、船入澗。人名不詳

(大正二〇—昭和三) 防波堤、繫船突堤、埋立、船入澗。入江矩夫

### 台湾、朝鮮の港

運輸省東寿氏調による  
台湾(本庁内土木課長山形要助、田賀奈良吉)  
朝鮮(本庁内に土木課長坂出鳴海、榛葉孝平、技師横井増治)

基 隆 (台湾)

第一期 (明治三三—三五) 浚渫、鉄仮棧橋等。川上浩二郎

第二期 (明治三九—昭和三) 岸壁、防波堤、浚渫等。川上浩二郎、松本虎太

第三期 (昭和四—一八) 岸壁、防波堤、陸上設備等。松本虎太、囃子竹八、吉村善臣

高 雄 (台湾)

第一期 (明治四—大正二) 浚渫、荷揚場等。筒井丑太郎

- 第二期(大正一一〇)岸壁、浚渫、防波堤。(山形要助)筒井丑太郎  
 第三期(大正一一昭和三)岸壁、防波堤。長尾正元  
 第四期(昭和六一七)同 右。山下繁造  
 第五期(昭和五一二〇工事中終戦にて中止)繫船施設の一部。篠原国憲  
 釜 山

韓国財政顧問時代(明治三九―四四)埋立、鉄道棧橋等。遠藤  
 第一期(明治四四―大正七)埋立、浚渫、防波堤、鉄道棧橋等。榎  
 第二期(大正八―昭和二)棧橋、突堤、埠頭、浚渫、陸上設備等、其他釜山府及民間工事若干。人名不明  
 第三期(昭和八―一四)浚渫、繫船突堤等。横井増治、待山義雄  
 第四期(昭和五一二〇)(終戦にて工事中止)防波堤。待山義雄

仁 川

韓国財政顧問時代(明治三九―四四)埋立、棧橋、陸上設備等。人名不明  
 第一期(明治四四―大正一二)閘門式船渠、埋立及附帯設備。(坂出鳴海)横井増治、永井松次郎  
 第二期(昭和四―九)横棧橋、防砂堤、埋立等。人名不明  
 第三期(昭和一〇―二〇終戦まで)船渠、閘門、第二船渠等、これにて略完成。横井増治、福井瀨  
 鎮 南 浦  
 韓国財政顧問時代(明治三九―四四)埋立、棧橋、上屋、倉庫等。岩城、村幸長

(大正一一四)開船渠、陸上設備等。岩城  
 (昭和一一七、其後工事なし)石炭積込施設、埋立、岸壁、起重機、陸上設備等。福井瀨、  
 元 山

韓国財政顧問時代(明治三九―四三)埋立、物揚場、防波堤、突堤、棧橋等。人名不明  
 (大正四―昭和三)海陸連絡設備、棧橋、防波堤、浚渫等。池辺稻生  
 (大正一一四―昭和二)元山府營にて埋立、物揚場を作る。義原弥七、完成後工事なし。  
 清 津

韓国財政顧問時代(明治三九―四三)税関施設及用地埋立、防波堤等。人名不明  
 (〃) (〃) 清津府營にて埋立、物揚場、人名不明  
 (大正一一―一四)鉄道引込、陸上設備一部  
 (昭和一一七)防波堤、埋立、浚渫、岸壁等 } 野方寅吉

木 浦

韓国財政顧問時代(明治三九)埋立、物揚場棧橋  
 (大正四年七年一〇年度)棧橋、物揚場  
 (大正二四以後)水深維持  
 (大正一一五―昭和五)ポンツーン等。藤原

城 津

韓国財政顧問時代（明治四二―四四）埋立、上屋、防波堤

（大正一一―一五）防波堤、防砂堤、埋立、浚渫。野方寅吉

漁港工事（昭和六一―八）威鏡北道々營、防波堤、漁港設備）野方寅吉、小野殖

（昭和一一―二〇終戦まで）同 右

漁港設備